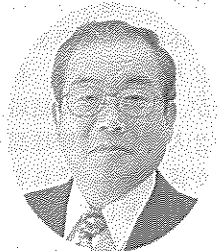


同窓会会報

第64号

平成28年8月21日発行

富山県立上市高等学校同窓会



「スマートインターチェンジ」

同窓会長 伊東尚志
(上市町長)

日頃から同窓会活動に温かいご理解とご協力をいただいておりますこと、心より感謝申し上げますとともに同窓会員の皆様にはますますご壮健でご活躍のこととご推察いたします。

さて、上市町では、予めから準備を進めておりました(仮称)上市スマートインターチェンジにつきまして、国において新規事業化箇所として決定され、6月に国土交通大臣より町に連結許可が、おりたところであります。今後、測量や実施設計等、事業が本格化することとなり、概ね5年後の供用開始を目標にこの事業の促進に取り組んでまいりたいと考えております。

また、北陸新幹線が開通から1年半近く経過し、上市

町にも少しずつではありますが首都圏や県外からの観光客が増えてきているところです。こうした中でこのスマートインターチェンジの設置は、観光客のさらなる増加をはじめ、各産業の活性化につながると共に、広域消防、救急救命活動及び防災活動などで高速道路が持つ安全性や速達性が向上することから、今後の上市町の発展に大きく貢献することになるものと考えております。

県外にお住まいの同窓会員の皆様にも供用開始にご期待をいただきたいと思います。

最後になりますが、母校である上市高校の今後、益々の発展と会員の皆様の末永いご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、ご挨拶といたします。



同窓会総会に寄せて

校長 角 間 匡 之

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育の充実と発展のために、ご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

私が高校生の頃は、東京へ行くのに信越線の特急「白山」で富山から上野まで6時間程かかったと記憶しています。今は北陸新幹線のおかげで2時間程になりました。昨年の秋、東京で行われた同窓会関東支部会に出席した際には、東京日帰りも苦になりませんでした。その支部会で田辺誠先生とお会いし、上市高校と新幹線に意外な結びつきがあることを初めて知りました。

田辺先生は、昭和40年に上市高校を卒業され、現在は神奈川工科大学機械工学科の教授をなさっています。新幹線の安全走行実験で活用されているシュミレーションプログラムは先生が開発されたもので、北陸新幹線の走行実験にも使われたとのことでした。そして「母校のために、私にできることがあったら何でも言ってください。」



青春讃歌

副校長 高 安 敏 男

校舎の3階からは、遠く富山湾を背景に北陸新幹線の走行する様子が見え時代が少しずつ進んでいることを感じています。誰もがそうであるように若き日々を同じ学舎で過ごしたということは、貴重な財産で有り、生涯にわたって親交を深める友と出会うことも多くあります。また、良いことも悪いことも強く印象に残り、取り立てて誇らしいことがなくても、泣き笑ひし、悩み苦しんだ当時の自分を思い起こすだけでも、甘さとほろ苦さが混ざり合った感情が沸いてきます。

さて、新聞等でご存知の方も多いと思いますが、本校野球部は今年、泊高校との合同チームとして、2年ぶりに夏の県大会に出場しました。単独チームでないところに、一抹の寂しさを感じてしまいますが、2人の3年生にとっては大きなドラマがありました。彼らが入学したときは、3年生もいて単独チームで出場できましたが、2年生がいなかったために、その年の夏休みはマネージャーを含めて3人で練習することになります。2人は同じ中学校出身で、大きな野球バックを担いで登校し、広

と言葉をかけていただきました。

北陸新幹線開通一周年となる3月中旬、先生の開発された技術が、北陸新幹線開通にも貢献したことが新聞（3月17日北日本新聞）に取り上げられました。先生のお話では、新聞記事の取材の際、少しでも後輩の励みになるよう上市高校を卒業したことを必ず記載するよう注文を付けたとのことでした。改めて母校を思ってください同窓生の方々の熱い思いに感動しました。

そんなこともあって、同窓会から支援をいただき、7月11日に田辺先生をお招きし、講演会を開催することができました。全校生徒が大先輩から先端技術の講義を直接受け、「主体的に学び、考え、工夫することが大切である」と激励していただくことができました。

本校は「生徒一人一人の興味・関心に基づく主体的な学習を促し、個性を伸ばさせ、生涯にわたって学ぶ意欲や態度を育成すること」を理念として、平成9年に県内で二校目の総合学科単独校として新たな出発をしました。総合学科の学校として今年で20年目を迎えます。本校の教育実践にはまだまだ課題もありますが、創立百周年に向け、さらに前進できるよう努めてまいります。どうか同窓会の皆様には、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

いグラウンドに2人だけで練習し、帰りは上市駅のベンチに並んで腰を下ろし、体を休めている姿をよく見かけました。翌年も新入部員が2人しか入らず、春の大会は合同チームで出場しましたが、夏の大会は結局出場辞退となってしまいます。いつ2人がやめて野球部が休部になってもおかしくない状態が続きます。それを耐え抜いて、最後の夏の大会を投手・捕手として、高岡西部総合公園野球場のグラウンドに立ち、母校ために頑張ってくれました。コールド負けという結果でしたが彼らのこれまでの努力と強靱な精神力に大きな賞賛の拍手を送りたいと思います。30年近く高校野球の指導に携わってきましたが、このような2人に出会うことはそんなに多くありません。2人には、この3年間で経験したことを糧に長い人生を力強く生きてほしいと思います。

私も2年前に本校に赴任し、今年度が教員生活最後の1年となります。恵まれた自然環境の中で、心根の優しい多くの生徒たちに囲まれて勤務させていただいております。生徒たちには、様々な体験を通して主体性を身につけ、社会にとって有益な人材となることを願って指導しております。同窓会員の皆様には、今後とも、母校に対する変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。